Local Area News

繊維製品の魅力を発信
（一社）群馬県繊維連合会

10月12日・13日の2日間、前橋市・群馬県庁県民ホールにおいて、群馬県と県内の繊維関係組合5組合（桐生織物（協）、伊勢崎織物（協）、東日本編レース（工）、太田ニット工業（協）、桐生刺繍商工業（協））で構成される一般社団法人群馬県繊維連合会との共催により、若い世代に本県繊維産業の魅力をPRするイベント「Fashionable Gunma」を開催した。

今回が初の開催となり、5組合に所属する組合員企業から15社がブースを設け、和装・洋装・ニット・刺繍といった自社の特徴ある繊維製品を対面販売し、PRを行った。

各団体による作品の展示も行われた

12日にオープニングセレモニーが行われ、群馬県知事代理の向田忠正群馬県産業経済部長と各5団体の長によるテープカットでステージ企画が開幕し、群馬テレビの公開収録などが行われた。翌13日には、ファッションショーが行われ、前橋文化服装専門学校の学生とデザイン等でコラボレーションした衣装を、学生自身が着用しモデルとなってランウェイを歩いた。ホールには多くの来場者が詰めかけ賑わいを見せていた。

セレモニーでのテープカットの様子

組合員の技術力をアピール
館林金属工業団地（協）

10月23日、館林市・組合事務所において、「ものづくりミュージアム」完成披露会を開催した。

「ものづくりミュージアム」は、製造業の人手不足や人材確保難が続く中、ものづくりの楽しさや、組合員企業の高い技術力を学生達に知ってもらいたいと、組合事務所の一室を改装して設置した。各企業の会社紹介のパネルや、代表的な製品などを展示している。

当日は、ミュージアムの見学の後、多田征訓理事長による組合の概要説明、さらに組合員企業の工場見学を実施。須藤和臣館林市長をはじめ、組合の関係者計43名が参加し、ミュージアムの開設を祝った。

（左）特徴ある製品が展示されたブース

多くの人で賑わうミュージアム（右）

チャリティゴルフコンペを初開催

群馬県防水工事業（協）

10月23日、高崎市・サンコー72カントリークラブにおいて、チャリティゴルフコンペを開催した。

同コンペは組合の青年部（柴崎浩良部長）が中心となって企画し、「平成30年7月豪雨」のチャリティとして実施。今回が初の開催となり、親会・青年部のほか賛助会員も合わせて50名弱が参加する盛大なゴルフコンペとなった。

コンペ終了後、ゴルフ場隣接のホテルにて表彰式を開催。ニアピン・ドラコンといった恒例のものから、多くの協賛企業による賞品が用意され、名前が呼ばれる度に大きな歓声が上がっていた。

11月1日には、顧問である狩野浩志県議先導のもと、前橋市・群馬県議会庁舎において、ゴルフコンペで集まったチャリティ金の贈呈式を挙行。約15万円を、日本赤十字社群馬県支部の髙橋功調整監へ手渡した。

恒例のニットフェスタを開催

太田ニット工業（協）

11月2日・3日の2日間、前橋市・群馬県庁県民ホールにおいて、「太田ニットフェスタ2018」を開催した。

本イベントは、ニット製品が重宝される秋・冬シーズンに合わせて、組合員が消費者に直接自社の製品をPRする機会を設けようと組合で毎年行っている。

会場では、今シーズン向けの各種ニット製品の直販コーナーを設けて販売を行ったほか、来シーズンに向けて制作中の新商品の展示も行った。

女性客を中心に賑わう会場

円滑な事業承継の実現に向けて

群馬県石油（協）

11月7日、前橋市・組合事務所会議室において、事業承継をテーマに講習会を開催した。講師は税理士の齋藤仁志氏。

齋藤氏は「事業承継に最も重要なことは承継後の会社の未来を描けるかどうか。10年、20年後にわたって経営していく価値のある会社であるかを冷静に判断するためにも、現状の把握と将来のビジョン策定が重要である」と説明。

次いで、「事業承継の際は、相続税の多寡よりも、経営資源をいかに後継者へ残せるかを考えることが、スムーズな事業承継の実現につながる」と解説した。

講習会の様子